

受注活動と各種効率化策が成果を上げ 増収増益を確保することができました。

Q1 | 当第2四半期の総括をしてください。

2014年9月期第2四半期は、国内3事業とも受注活動が順調に推移したことなどから増収を確保しました。また、国内SMO・CSO事業における売上原価の低減と販売費および一般管理費（販管費）の抑制などに努めた結果、利益面について営業利益・経常利益・四半期純利益ともに前年同期から2ケタの大幅増益を達成することができました。

当第2四半期の連結業績数値は、売上高19,852百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益1,923百万円（同10.5%増）、経常利益1,978百万円（同20.7%増）、四半期純利益896百万円（同33.4%増）となっています。

代表取締役会長 巖 浩

1962年生まれ。中国江蘇省出身。1979年天津大学に入学。1981年中国国費留学生として山梨大学、東京大学（大学院博士課程）で医学統計を専攻し、臨床試験にかかわる研究・実務に従事。東京大学大学院在学中の1991年、当社を創業。創立10周年に当たる2001年に株式をジャスダックに上場。2006年9月、東証一部へ上場。

Q2 | 各セグメントはどのような概況ですか。

国内CRO事業

国内CRO事業の売上高は11,640百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は1,681百万円（同10.2%減）で、期初計画をクリアしました。モニタリング業務、臨床研究・医師主導治験および医療機器の支援業務が順調に推移しています。



国内SMO事業

国内SMO事業の売上高は3,166百万円(同13.0%増)、営業利益は475百万円(同738.8%増)となりました。大型案件の順調な進捗が売上に寄与し、利益面ではCRCの採用の効率化などによる売上原価・販管費の削減が大幅な増益につながりました。

国内CSO事業

国内CSO事業の売上高は2,859百万円(同2.6%増)、営業利益は120百万円(同271.3%増)となりました。MR採用の強化、PMS(市販後調査)部門の業務効率化が奏功し、前期に比べて大幅な増益となりました。

Global Research事業

Global Research事業は、売上高1,070百万円(同31.9%増)、営業損失158百万円(前年同期は1百万円の損失)となりました。営業を推進して増収を果たした一方、利益面では為替レートの変動による影響を受けました。

益新事業

益新事業は、売上高1,577百万円(同89.8%増)、営業損失172百万円(前年同期は217百万円の損失)となりました。医療機器事業でデジタルレントゲン検査機や画像フィルムなどの販売が伸びたことなどで、赤字幅が縮小しました。

Q3 | 通期の取り組みと業績の見通しを教えてください。

当期から、事業の自主独立運営、グループ経営機能の強化を方針に掲げて諸施策を推進しています。その一つとして、2014年4月に組織改正を実施しました。新たな組織で機能強化を図り、まずは通期の計画達成を目指します。通期の連結業績は期初計画通り売上高40,961百万円、営業利益4,110百万円、経常利益4,150百万円、当期純利益2,006百万円を見込んでいます。

組織改正のポイント

● グループ管理・支援の強化

- ・従来の経営戦略本部と管理本部を廃し、「グループ管理センター」を新設

● CRO事業本部における事業運営機能の強化

- ・総務室・経理室・人事室と経営支援、ITを統括する「CRO管理センター」を設置
- ・中核業務であるデータマネジメント組織体制を再編し「マネジメント推進センター」を設置
- ・2016年度から義務付けられる予定のCDISC標準対応サービスを推進する専門部署を新設
(新サービスの詳細はP5トピックスをご参照ください。)